

トマト

食味に優れたトマト黄化えそ病(TSWV)抵抗性中玉トマト品種!

(カネコ交配)

# レッドボレロ

Tomato, Red Bolero Hybrid



カネコ種苗株式会社

TEL. 027(251)1611(代)



(カネコ交配)

# レッドボレロ

中玉トマト

Tomato, Red Bolero Hybrid

## ●特性●

- (1) トマト黄化えそ病(TSWV)に対して抵抗性の中玉トマトです。その他、葉かび病(Cf-9)、ToMV(Tm-2<sup>a</sup>)、萎ちょう病(レース1、2)、サツマイモネコブセンチュウにも安定した複合耐病虫性を有します。
- (2) 平均1果重は、35~40gです。
- (3) 果色は濃赤色で光沢があり、糖度が高く食味は極良です。
- (4) 草勢はやや強めで安定しており、収穫後半までスタミナがあります。
- (5) 1花房あたりの平均着果数は8~12果です。
- (6) 適応作型は、ハウス無加温、雨除け、抑制栽培が適します。

## ●栽培要点●

### 【育苗】

育苗は全期間を通じて、温度・水分を極端に抑えすぎず、光線を十分に当てて育てます。特に育苗後半の極端な水切りや低温管理は、低段果房の品質低下につながるので注意します。

### 【定植】

定植適期を逃さないように、早めの圃場準備を心掛けます。草勢過多は着果不良、果形の乱れにつながるため、元肥量は従来品種より少なめを基本としますが、極端な老化苗での定植は避けます。定植本数は、1,800~2,000本/10a程度としますが、抑制作型等の果実肥大期に強光線が当たるような場合には、やや密植することにより果実への直射光線を遮り、品質向上を目指します。

### 【灌水・追肥】

第3花房開花以降、4~5花咲いた位置の主莖の太さが、鉛筆1~1.5本分位の太さになるように灌水・追肥を行います。また、高温期は通路灌水を行うことで、ハウス内の高温・過乾燥を防ぎます。灌水は乾湿の差をつけず、コンスタントに行います。特別な水切りは必要なく、伸び伸びと育てることが良食味につながります。1回あたりの追肥量は、液肥の場合、窒素成分1kg/10a以下とし、それ以上の急激な追肥は控えます。

### 【摘心】

最終ホルモン処理の10日前が摘心のタイミングですが、その時点で草勢が強すぎる場合は摘心を遅らせます。また、摘心以降は追肥を行わず灌水のみ継続します。摘心後、上部に発生した側枝は半放任の状態にすることで、終盤の果実の裂果対策とします。

### 【その他】

- ①「トマト黄化えそ病」に抵抗性を有しますが、アザミウマによる“金粉果症”は発生しますので、必要な防除を行うようにします。
- ②土壌病害が心配な圃場では接木栽培を行います。台木は、乾きやすい圃場や長期どりを狙う場合は、「強健」・「スーパー良縁」・「助人」、地下水位が高く草勢が付きやすい圃場では「良縁」・「根くらべ」が親和性も良く適しています。
- ③越冬作型は、果実肥大が悪く不向きです。

## ●ミニコラム●

「トマト黄化えそ病」は、トスポウイルス属のトマト黄化えそウイルス(TSWV)によって引き起こされ、一旦発病すると収穫が皆無になる非常に恐ろしい病気です。この病気はアザミウマ類によって媒介されるため、虫の防除が有効な手段ですが、ウリ科作物や花卉類、雑草など多くの植物がアザミウマ類の宿主となるため、完全な防除は容易ではありません。そこで特に食味で評価を頂いている「レッドオーレ」にTSWV抵抗性・葉かび病耐病性(Cf-9)を付与いたしました。作りやすく、食味も良いことから直売等にもおすすめの品種です。また、鮮やかな黄色ですっきりとした味わいの中玉トマト「イエローオーレ」、甘さと酸味のバランスに優れたオレンジ色の中玉トマト「オレンジオーレ」とあわせて栽培していただくと、彩りで目を引くだけでなく、様々な味が楽しめます。

## ●栽培作型●

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス無加温	○	x		■	■	■	■					
ハウス雨除け			○	x			■	■	■	■		
ハウス抑制						○	x		■	■	■	■

○ 播種期 — 生育期 ■ 収穫期

**カネコ種苗株式会社**

〒371-8503 前橋市古市町1-50-12

TEL. 027(251)1611(代)

一般社団法人  
日本種苗協会  
設立 1900年

取扱店